



GroupSession ver.5.4

OAuth認証設定

- | | |
|------------------------------------|--------|
| 1. OAuth認証を使用する場合の制限事項 | ・・・ 1 |
| 2. プロバイダの設定を行う(Google Mailの場合) | ・・・ 2 |
| 3. プロバイダの設定を行う(Exchange Onlineの場合) | ・・・ 13 |
| 4. OAuth認証情報を登録する | ・・・ 23 |

1. OAuth認証を使用する場合の制限事項

OAuth認証をご利用いただく場合、GroupSessionの動作環境が下記であることが前提となります。

1: GroupSessionのURLに「ドメイン名」が設定されている

GroupSessionへアクセスする際のURLが「IPアドレス指定」ではなく、「ドメイン名指定」である必要があります。
※「トップレベルドメイン(ドメイン名の一番右の部分)」が独自設定(.local 等)の場合ご利用いただけない場合がございます。

- × <https://192.168.1.1/gsession/common/cmn001.do>
- <https://groupsession.jp/gsession/common/cmn001.do>

2: 「HTTPS」接続が可能である

GroupSessionへアクセスする際の通信プロトコルが「http」ではなく、「https」である必要があります。

- × <http://groupsession.jp/gsession/common/cmn001.do>
- <https://groupsession.jp/gsession/common/cmn001.do>

2. プロバイダの設定を行う(Google Mailの場合)

1: Google Cloud Pratform へアクセスする

下記URLへアクセスした後、ログインを行います。
 ※ 事前にGoogle アカウントを作成する必要があります。

URL: <https://console.cloud.google.com/>

2: 新しいプロジェクトを作成する

- 画面上部の「プロジェクトの選択」をクリックします。
 ※ 「プロジェクトの選択」ではなく、「My Project」等のプロジェクト名称が表示されている場合があります。



- 画面上部の「新しいプロジェクト」をクリックします。



- [プロジェクト名]を入力します。(本マニュアルでは「GroupSession」をプロジェクト名とします) 入力完了後、画面下部の「作成」をクリックします。



3: 作成したプロジェクトを選択する

1. 作成完了後、画面上部の「プロジェクトの選択」をクリックします。
※「プロジェクトの選択」ではなく、「My Project」等のプロジェクト名称が表示されている場合があります。

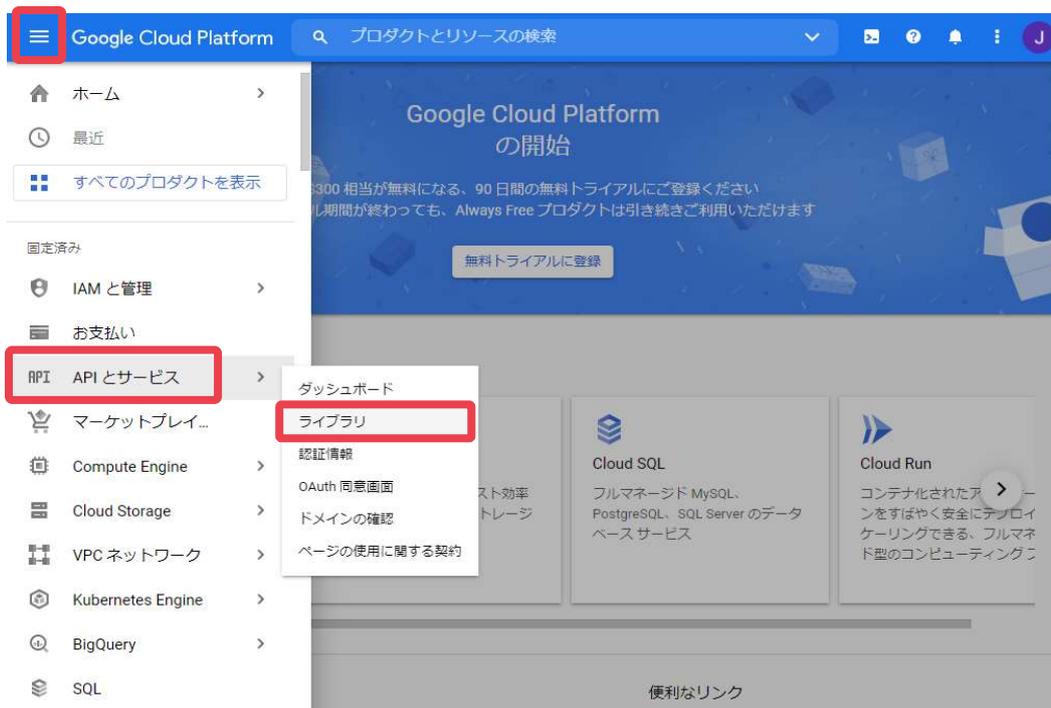


2. 作成したプロジェクトの名称をクリックします。

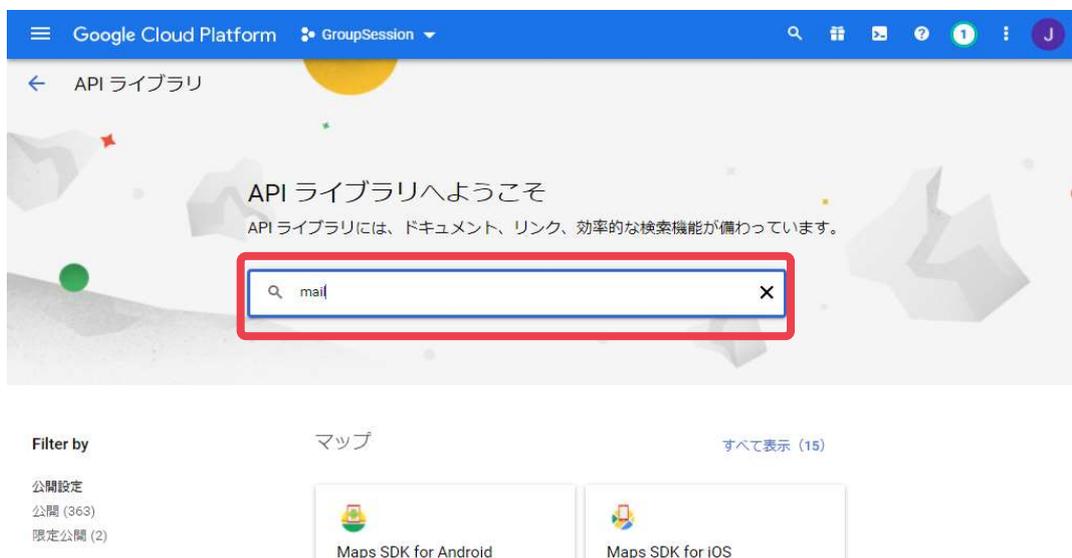


4: Gmail API を利用可能に設定する

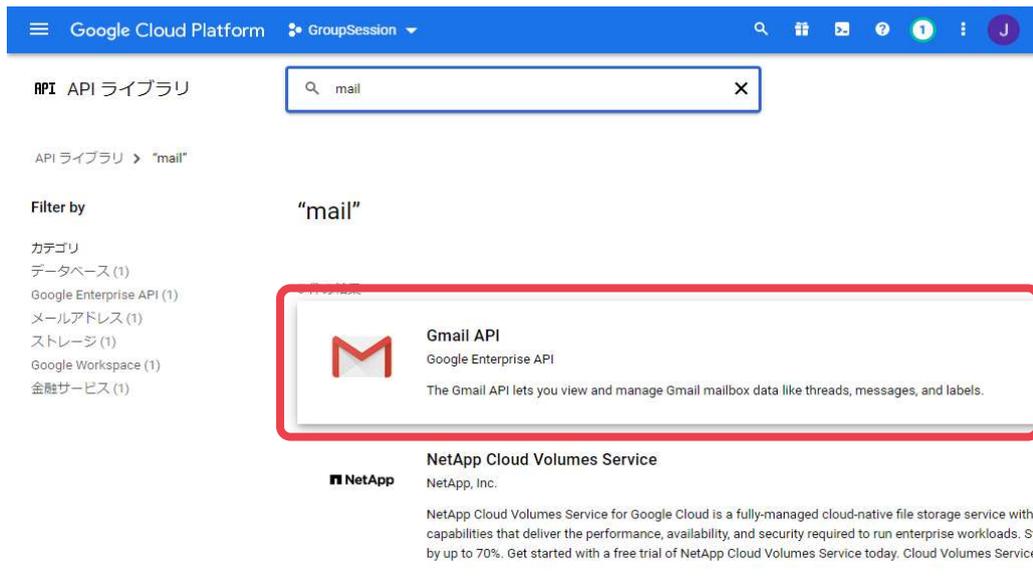
1. 画面左上のハンバーガーメニューをクリックします。
その後、[APIとサービス] - [ライブラリ] をクリックします。



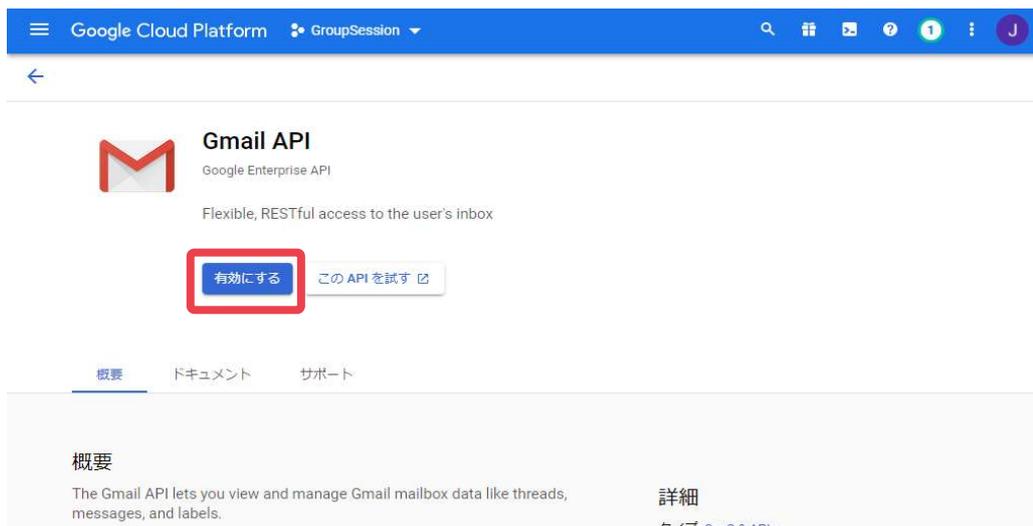
2. 検索テキストボックスに“mail”と入力し、エンターキーを押します。



3. 「Gmail API」をクリックします。

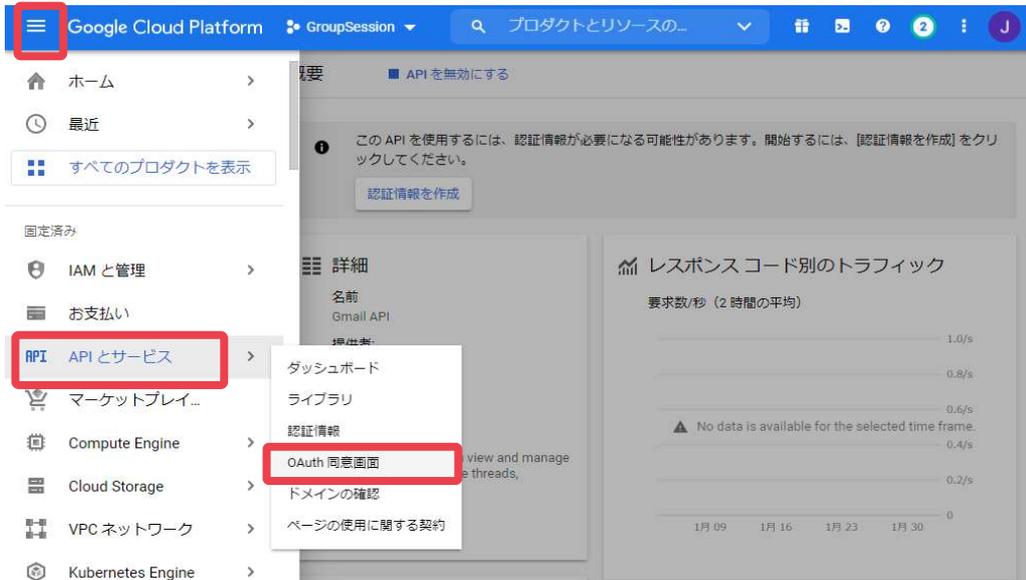


4. 「有効にする」をクリックします。



5: OAuth同意画面の設定を行う

1. 画面左上のハンバーガーメニューをクリックします。
その後、[APIとサービス] - [OAuth 同意画面] をクリックします。



2. 「外部」を選択します。
その後、「作成」をクリックします。



3. 画面の各項目を入力し、「保存して次へ」をクリックします。

API API とサービス

アプリ登録の編集

1 OAuth 同意画面 — 2 スコープ
— 3 テストユーザー — 4 概要

アプリ情報

この情報は同意画面に表示されるため、開発者のユーザー情報と開発者への問い合わせ方法をエンドユーザーが把握できます。

アプリ名*
GroupSession Gmail認証

ユーザーサポートメール*
[選択可能なメールアドレス]

アプリのロゴ [参照](#)

ユーザーがアプリを認識できるように、同意画面に 1 MB 以下の画像をアップロードします。使用できる画像形式は、JPG、PNG、BMP です。最適な結果を得るには、ロゴを 120 x 120 ピクセルの正方形にすることをおすすめします。

この情報をユーザーに表示する方法
ユーザーが閲覧する同意画面です

Sign in with Google

1 [Display Name] wants access

3 Make sure you trust [Display Name]

アプリ名: 任意のアプリ名
(本マニュアルでは「GroupSession Gmail認証」)

ユーザー サポートメール: 任意のメールアドレス
(選択可能アドレスの中から選択する)

API API とサービス

アプリ登録の編集

[アプリケーション プライバシー ポリシー] リ...

一般公開のプライバシー ポリシーへのリンクをユーザーに提供します

[アプリケーション 利用規約] リンク

一般公開の利用規約へのリンクをユーザーに提供します

承認済み

この同意画面が使用されています。検索コンソールでこの同意画面の上限の数を調べたい。

+ ドメインの追加

開発者の連絡先情報

メールアドレス*

これらのメールアドレスは、プロジェクトの変更について、Google からお知らせするために使用されます。

保存して次へ キャンセル

この情報をユーザーに表示する方法
ユーザーが閲覧する同意画面です

Sign in with Google

1 [Display Name] wants access

3 Make sure you trust [Display Name]

開発者の連絡先情報: 任意のメールアドレス(※)
※ 認証情報を管理するご担当者様の連絡先メールアドレス

入力完了後、「保存して次へ」をクリック

4. 画面の各項目を変更せずに「保存して次へ」をクリックします。

Google Cloud Platform GroupSession プロダクトとリソースの...

API API とサービス アプリ登録の編集

ダッシュボード
ライブラリ
認証情報
OAuth 同意画面
ドメインの確認
ページの使用に関する契約

スコープを追加または削除

非機密のスコープ

API ↑	範囲	ユーザー向けの説明
表示する行がありません		

機密性の高いスコープ

機密性の高いスコープとは、プライベートユーザーデータへのアクセスをリクエストするスコープです。

API ↑	範囲	ユーザー向けの説明
表示する行がありません		

制限付きのスコープ

制限付きのスコープとは、機密性の高いユーザーデータへのアクセスをリクエストするスコープです。

API ↑	範囲	ユーザー向けの説明
表示する行がありません		

保存して次へ キャンセル

5. 画面の各項目を変更せずに「保存して次へ」をクリックします。

Google Cloud Platform GroupSession プロダクトとリソースの...

API API とサービス アプリ登録の編集

OAuth 同意画面 — スコープ — 3 テストユーザー — 4 概要

ダッシュボード
ライブラリ
認証情報
OAuth 同意画面
ドメインの確認
ページの使用に関する契約

テストユーザー

公開ステータスが「テスト中」に設定されている間は、テストユーザーのみがアプリにアクセスできます。アプリの確認前の許可済みユーザー数の上限は 100 で、この上限はアプリの全期間でカウントされます。 [詳細](#)

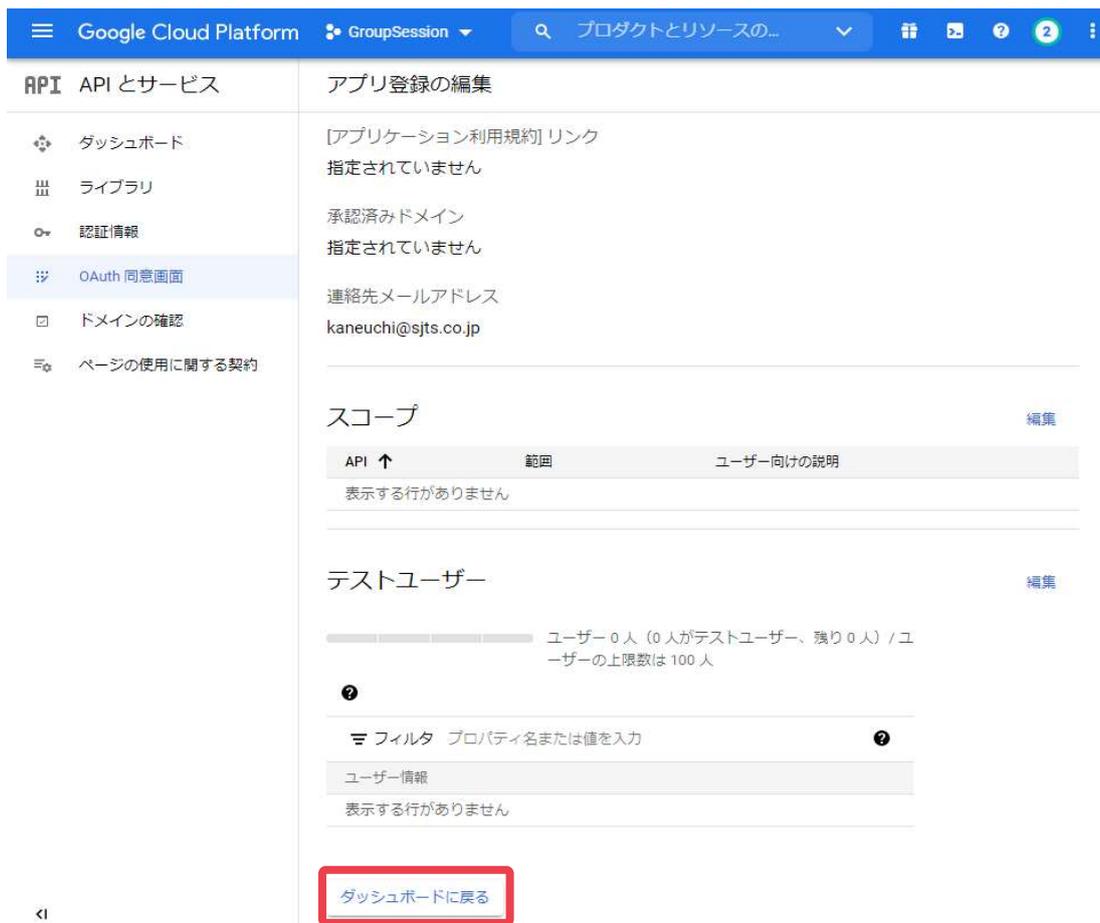
+ ADD USERS

フィルタ プロパティ名または値を入力

ユーザー情報
表示する行がありません

保存して次へ キャンセル

6. 入力した各種項目を確認後、「ダッシュボードに戻る」をクリックします。



6: 認証情報を作成する

1. 画面左上のハンバーガーメニューをクリックします。
その後、[APIとサービス] - [認証情報] をクリックします。



- 画面上部の「認証情報を作成」をクリックします。
その後、「OAuth クライアント ID」をクリックします。



- 画面の各項目を入力し、「作成」をクリックします。

アプリケーションの種類: ウェブ アプリケーション

名前: 任意の名称
(本マニュアルでは「GroupSession Gmail認証」)

認証済みのリダイレクトURL:

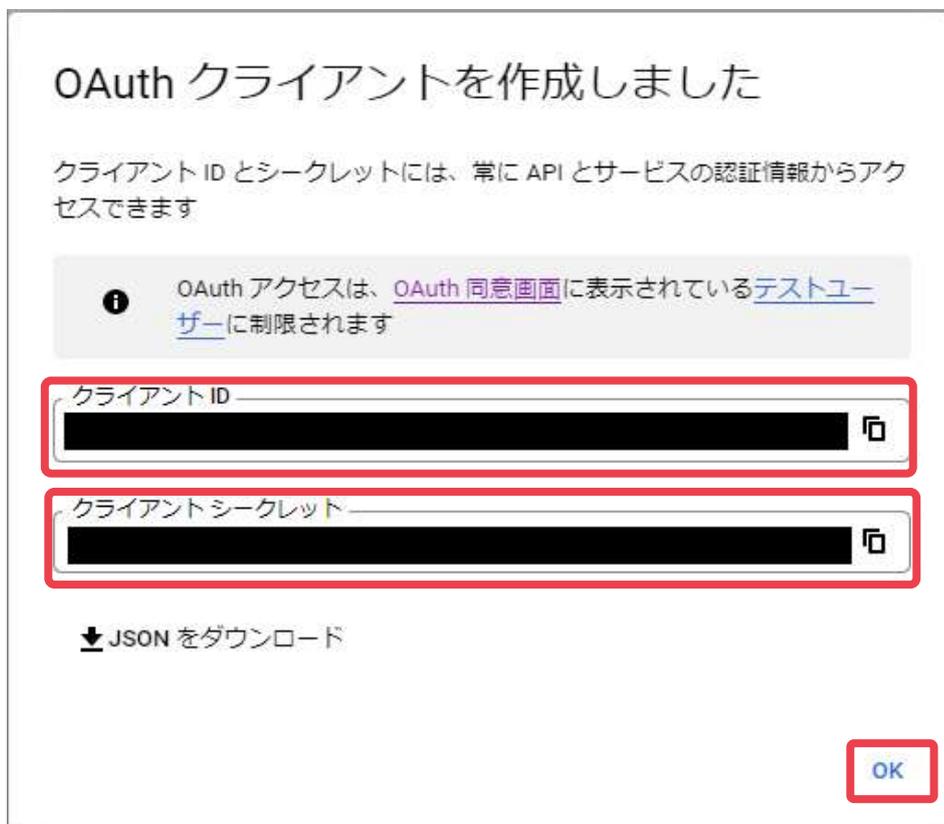
- 「URI を追加」をクリックし、「URI 1」テキストボックスを表示
- 「URI 1」テキストボックスに下記URLを入力
{GroupSession URL}/common/cmn270.do

例: GroupSession URL = https://groupsession.jp/gsession の場合
https://groupsession.jp/gsession/common/cmn270.do

入力完了後、「作成」をクリック

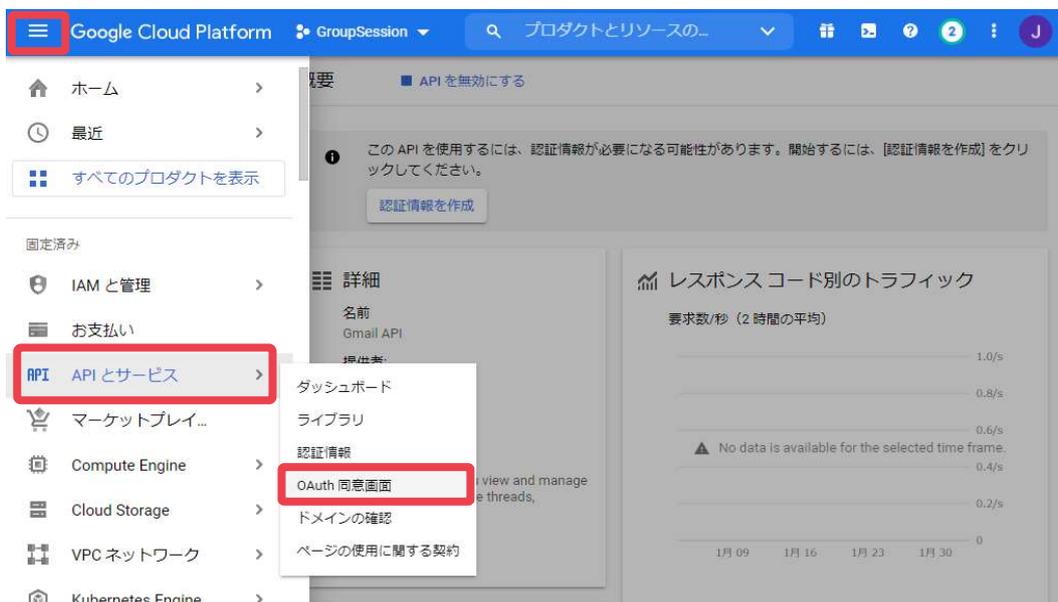
- OAuthクライアント作成完了画面がダイアログで表示されます。
画面に表示されている「クライアントID」、「クライアントシークレット」をコピーし、テキストファイル等で保存しておきます。(GroupSessionのOAuth認証設定画面で必要となります。)

「クライアントID」、「クライアントシークレット」の保存完了後、OKをクリックします。



7: アプリの公開を行う

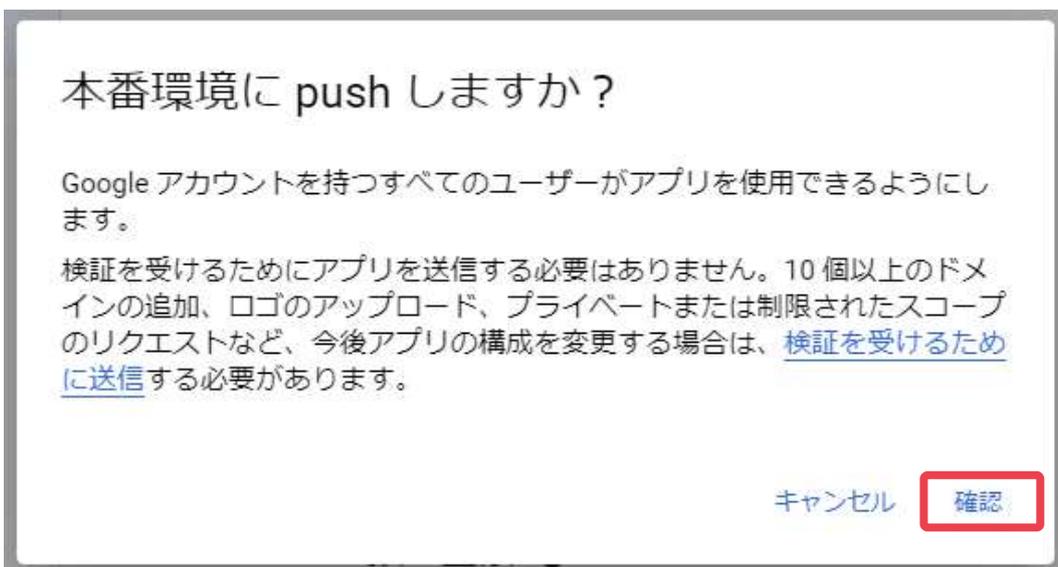
- 画面左上のハンバーガーメニューをクリックします。
その後、[APIとサービス] - [OAuth 同意画面] をクリックします。



2. 「公開ステータス」下側に表示されている「アプリを公開」をクリックします。



3. 「確認」をクリックします。



4. [公開ステータス]が「本番環境」に変更されていることを確認します。



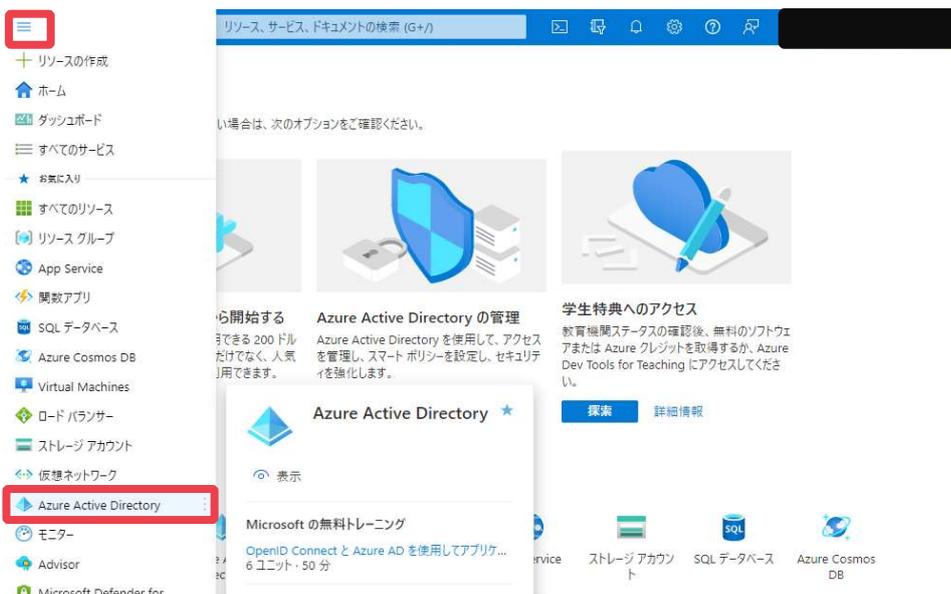
3. プロバイダの設定を行う(Exchange Onlineの場合)

1: Microsoft Azure へアクセスする
 下記URLへアクセスした後、サインインを行います。
 ※ 事前にMicrosoft アカウントを作成する必要があります。

URL: <https://portal.azure.com/>

2: アプリケーションを登録する

1. 画面左上のハンバーガーマニューをクリックします。
 その後、[Azure Active Directory] をクリックします。



2. 画面左の[アプリの登録]をクリックします。

ホーム > 日本トータルシステム株式会社 | 概要 ...

Azure Active Directory

概要 監視中 チュートリアル

テナントの検索

基本情報

名前	日本トータルシステム株式会社
テナント ID	[REDACTED]
プライマリドメイン	[REDACTED]
ライセンス	[REDACTED]
ユーザー	3
グループ	1
アプリケーション	7
デバイス	0

管理

- 概要
- プレビュー機能
- 問題の診断と解決
- 管理
 - ユーザー
 - グループ
 - External Identities
 - ロールと管理者
 - 管理単位
 - エンタープライズアプリケーション
 - デバイス
 - アプリの登録**
 - Identity Governance
 - アプリケーションプロキシ
 - Custom security attributes (Preview)

3. 画面上の「新規登録」をクリックします。

ホーム > 日本トータルシステム株式会社

日本トータルシステム株式会社 | アプリの登録 ...

Azure Active Directory

+ 新規登録 エンドポイント トラブルシューティング 最新の情報に更新 ダウンロード ...

2020年6月30日以降、Azure Active Directory 認証ライブラリ (ADAL) および Azure AD Graph に新しい機能はもう追加されません。テクニカルサポートとセキュリティ更新プログラムは今後も提供されますが、機能更新プログラムは提供されません。アプリケーションを、Microsoft 認証ライブラリ (MSAL) および Microsoft Graph にアップグレードする必要があります。詳細情報

すべてのアプリケーション 所有しているアプリケーション 削除されたアプリケーション

表示名を入力し始めるとこれらの結... アプリケーション (クライアント) ID 次の順で始まる フィルターの追加

4. 画面上の各項目を入力し、「登録」をクリックします。

ホーム > 日本トータルシステム株式会社 >

アプリケーションの登録

* 名前

このアプリケーションのユーザー向け表示名 (後で変更できます)。

サポートされているアカウントの種類

このアプリケーションを使用したりこの API にアクセスしたりできるのはだれですか?

- この組織ディレクトリのみに含まれるアカウント (日本トータルシステム株式会社のみ - シングルテナント)
- 任意の組織ディレクトリ内のアカウント (任意の Azure AD ディレクトリ - マルチテナント)
- 任意の組織ディレクトリ内のアカウント (任意の Azure AD ディレクトリ - マルチテナント) と個人のアカウント
- 個人用 Microsoft アカウントのみ

[選択に関する詳細...](#)

名前: 任意の名称を入力
(本マニュアルでは「GroupSession Exchange Online認証」)

サポートされているアカウントの種類:

「任意の組織内ディレクトリ内のアカウント (任意の Azure AD ディレクトリ - マルチテナント)」を選択

リダイレクト URI (省略可能)

ユーザー認証が成功すると、この URI に認証応答を返します。この時点での指定は省略可能で、後ほど変更できますが、ほとんどの認証シナリオで値が必要となります。

作業に使用しているアプリをこちらで登録します。ギャラリー アプリと組織からの他のアプリを [エンタープライズ]

続行すると、Microsoft プラットフォーム ポリシーに同意したことになります [🔗](#)

入力完了後、「登録」をクリック

リダイレクトURI:

1. 左のセレクトボックスに「Web」を選択
2. 右のテキストボックスに下記URLを入力
https://{GroupSession URL}/common/cm270.do

例: GroupSession URL = groupsession.jp/gsession の場合
https://groupsession.jp/gsession/common/cm270.do

3: 認証情報を登録する

- 画面左の「アプリの登録」をクリックします。
その後、画面右 アプリケーション一覧に表示されているアプリ名称(2. で作成したもの) をクリックします。

日本トータルシステム株式会社 | アプリの登録

管理

- ユーザー
- グループ
- External Identities
- ロールと管理者
- 管理単位
- エンタープライズアプリケーション
- デバイス
- アプリの登録**
- Identity Governance
- アプリケーションプロキシ
- Custom security attributes (Preview)
- ライセンス
- Azure AD Connect

新規登録 エンドポイント トラブルシューティング 最新の情報に更新 ダウンロード

2020年6月30日以降、Azure Active Directory 認証ライブラリ (ADAL) および Azure AD Graph に新しい機能はもう追加されません。テクニカル サポートとセキュリティ更新プログラムは今後も提供されますが、機能更新プログラムは提供されません。アプリケーションを、Microsoft 認証ライブラリ (MSAL) および Microsoft Graph にアップグレードする必要があります。詳細情報

すべてのアプリケーション 所有しているアプリケーション 削除されたアプリケーション

表示名を入力し始めるとこれらの結... アプリケーション (クライアント) ID 次の値で始まる フィルターの追加

8 個のアプリケーションが見つかりました

表示名 ↑↓	アプリケーション (クライ...	作成日 ↑↓	証明書とシークレット
GE GroupSession Exchange Online認証	8fed9261-3189-420f-b...	2022/2/2	-

- まず、画面に表示されている「アプリケーション (クライアント) ID」をコピーし、テキストファイル等に保存してください。(※ GroupSessionの認証情報登録時に使用します)

その後、「証明書またはシークレットの追加」をクリックします。

GroupSession Exchange Online認証

検索 (Ctrl+F) 削除 エンドポイント プレビュー機能

概要

- クイックスタート
- 統合アシスタント
- 管理
- ブランド化とプロパティ
- 認証
- 証明書とシークレット
- トークン構成
- API のアクセス許可
- API の公開
- アプリ ロール
- 所有者
- ロールと管理者 | プレビュー
- マニフェスト
- サポート + トラブルシューティング

基本

表示名
GroupSession Exchange Online認証

アプリケーション (クライアント) ID

オブジェクト ID

ディレクトリ (テナント) ID

サポートされているアカウントの種類
複数の組織

クライアントの資格情報
証明書またはシークレットの追加

クライアント URI
1 個の Web、0 個の SPA、0 個のパブリック クライアント

アプリケーション ID の URI
アプリケーション ID URI の追加

ローカル ディレクトリでのマネージド アプリケーション
GroupSession Exchange Online認証

2020年6月30日以降、Azure Active Directory 認証ライブラリ (ADAL) および Azure AD Graph に新しい機能はもう追加されません。テクニカル サポートとセキュリティ更新プログラムは今後も提供されますが、機能更新プログラムは提供されません。アプリケーションを、Microsoft 認証ライブラリ (MSAL) および Microsoft Graph にアップグレードする必要があります。詳細情報

2020年11月9日より、エンドユーザーは、発行元が確認済みでない新しく登録されたマルチテナント アプリに対して同意を付与することができなくなります。MPN ID を追加して発行元を確認します

概要 ドキュメント

3. 「新しいクライアント シークレット」をクリックします。

GroupSession Exchange Online認証 | 証明書とシークレット

検索 (Ctrl+F) << フィードバックがある場合

概要
クイックスタート
統合アシスタント

管理
ブランド化とプロパティ
認証
証明書とシークレット
トークン構成
API のアクセス許可
API の公開
アプリ ロール
所有者
ロールと管理者 | プレビュー

アプリケーション登録証明書、シークレット、フェデレーション資格情報は、下のタブにあります。

証明書 (0) クライアントシークレット (0) フェデレーション資格情報 (0)

トークンの要求時にアプリケーションが自身の ID を証明するために使用する秘密の文字列です。アプリケーション パスワードと呼ばれることもあります。

+ 新しいクライアントシークレット

説明	有効期限	値	シークレット ID
このアプリケーションのクライアントシークレットは作成されていません。			

4. 各項目を入力し、「追加」をクリックします。

ホーム > 日本トータルシステム株式会社 > GroupSession Exchange Online認証

GroupSession Exchange Online認証

検索 (Ctrl+F) << フィードバックがある場合

概要
クイックスタート
統合アシスタント

管理
ブランド化とプロパティ
認証
証明書とシークレット
トークン構成
API のアクセス許可
API の公開
アプリ ロール
所有者
ロールと管理者 | プレビュー
マニフェスト
サポート + トラブルシューティング
トラブルシューティング
新しいサポートリクエスト

クライアントシークレットの追加

説明
有効期限

GroupSession Exchange Online 認証
24 か月

説明: 任意の名称を入力
(本マニュアルでは“GroupSession Exchange Online 認証”)

有効期限: 作成する認証情報の有効期限を選択
(本マニュアルでは“24か月”を選択)

追加 キャンセル

5. クライアント シークレット一覧に「4. で登録したクライアント シークレット」が表示されることを確認します。

[値] 右側の「クリップボードにコピー」アイコンをクリックし、「シークレット キー」のコピーを行います。
 コピーした「シークレットキー」は、テキストファイル等に保存してください。
 (※ GroupSessionの認証情報登録時に使用します)

GroupSession Exchange Online認証 | 証明書とシークレット

検索 (Ctrl+/) << フィードバックがある場合

概要

- クイックスタート
- 統合アシスタント

管理

- ブランド化とプロパティ
- 認証
- 証明書とシークレット**
- トークン構成
- API のアクセス許可
- API の公開
- アプリ ロール
- 所有者
- ロールと管理者 | プレビュー
- マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

お時間があれば、フィードバックをお寄せください。 →

資格情報は、Web アドレスの指定が可能な場所 (HTTPS スキーマを使用して) トークンを受信する際に、機密性の高いアプリケーションが認証サービスに対して自身を識別できるようにするためのものです。より高いレベルで保証するには、資格情報として (クライアント シークレットではなく) 証明書を使うことをお勧めします。

アプリケーション登録証明書、シークレット、フェデレーション資格情報は、下のタブにあります。

証明書 (0) クライアント シークレット (1) フェデレーション資格情報 (0)

トークンの要求時にアプリケーションが自身の ID を証明するために使用する秘密の文字列です。アプリケーション パスワードと呼ばれることもあります。

+ 新しいクライアント シークレット

説明	有効期限	値 ①	クリップボードにコピー	シークレット ID
GroupSession Exchange O...	2024/2/2	[Redacted]	[Copy Icon]	[Redacted]

4: API のアクセス許可を設定する

1. 画面左の[APIのアクセス許可]をクリックします。

ホーム > 日本トータルシステム株式会社 > GroupSession Exchange Online認証

GroupSession Exchange Online認証 | 証明書とシークレット

検索 (Ctrl+/) << フィードバックがある場合

概要

- クイックスタート
- 統合アシスタント

管理

- ブランド化とプロパティ
- 認証
- 証明書とシークレット**
- トークン構成
- API のアクセス許可**
- API の公開
- アプリ ロール
- 所有者
- ロールと管理者 | プレビュー
- マニフェスト

お時間があれば、フィードバックをお寄せください。 →

資格情報は、Web アドレスの指定が可能な場所 (HTTPS スキーマを使用して) トークンを受信する際に、機密性の高いアプリケーションが認証サービスに対して自身を識別できるようにするためのものです。より高いレベルで保証するには、資格情報として (クライアント シークレットではなく) 証明書を使うことをお勧めします。

アプリケーション登録証明書、シークレット、フェデレーション資格情報は、下のタブにあります。

証明書 (0) クライアント シークレット (1) フェデレーション資格情報 (0)

トークンの要求時にアプリケーションが自身の ID を証明するために使用する秘密の文字列です。アプリケーション パスワードと呼ばれることもあります。

+ 新しいクライアント シークレット

説明	有効期限	値 ①	シークレット ID
GroupSession Exchange O...	2024/2/2	[Redacted]	[Redacted]

2. 「Microsoft Graph」をクリックします。

GroupSession Exchange Online認証 | API のアクセス許可

検索 (Ctrl+) << 最新の情報に更新 | フィードバックがある場合

概要
クイックスタート
統合アシスタント

管理
ブランド化とプロパティ
認証
証明書とシークレット
トークン構成
API のアクセス許可
API の公開
アプリ ロール
所有者
ロールと管理者 | プレビュー
マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

2020年11月9日より、エンドユーザーは、発行元が確認済みでない新しく登録されたマルチテナントアプリに対して同意を付与することができなくなります。MPN IDを追加して発行元を確認します

“管理者の同意が必要”列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリごとにカスタマイズできます。この列には、ご自分の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。詳細情報

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一種としてユーザーが管理者からアクセス許可が付与されている場合、APIを呼び出すことが承認されます。構成されたアクセス許可の一覧には、アプリケーションに必要なすべてのアクセス許可を含める必要があります。アクセス許可と同意に関する詳細情報

+ アクセス許可の追加 ✓ 日本トータルシステム株式会社 に管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の...	種類	説明	管理者の同意が必要	状態
Microsoft Graph (1)				...
User.Read	委任済み	Sign in and read user ...	いいえ	...

アクセス許可とユーザーの同意を表示および管理するために、[エンタープライズ アプリケーション](#)をお試しください。

3. まず、[アクセス許可を選択する]テキストボックスに「SMTP」と入力します。その後、[SMTP] - [SMTP.Send] チェックボックスを選択します。

ホーム > 日本トータルシステム株式会社 | GroupSession Exchange Online認証 | API のアクセス許可

検索 (Ctrl+) << 最新の情報に更新 | フィードバックがある場合

概要
クイックスタート
統合アシスタント

管理
ブランド化とプロパティ
認証
証明書とシークレット
トークン構成
API のアクセス許可
API の公開
アプリ ロール
所有者
ロールと管理者 | プレビュー
マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

API アクセス許可の要求

Microsoft Graph
https://graph.microsoft.com/ [ドキュメント](#)

アプリケーションに必要なアクセス許可の種類

委任されたアクセス許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーとして API にアクセスする必要があります。

アプリケーションの許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーなしで、バックグラウンド サービスまたはデーモンとして実行されます。

アクセス許可を選択する すべて展開

SMTP

“管理者の同意が必要”列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリごとにカスタマイズできます。この列には、ご自分の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。詳細情報

アクセス許可	管理者の同意が必要
SMTP (1)	
<input checked="" type="checkbox"/> SMTP.Send Send emails from mailboxes using SMTP AUTH.	いいえ

[アクセス許可の更新](#) [破棄](#)

- [アクセス許可を選択する]テキストボックスに「IMAP」と入力(3. から変更)します。その後、[IMAP] – [IMAP.AccessAsUser.All] チェックボックスを選択します。

完了後、画面下部の「アクセス許可の更新」をクリックします。

Microsoft Graph
https://graph.microsoft.com/ ドキュメント

アプリケーションに必要なアクセス許可の種類

委任されたアクセス許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーとして API にアクセスする必要があります。

アプリケーションの許可
アプリケーションは、サインインしたユーザーなしで、バックグラウンドサービスまたはデーモンとして実行されます。

アクセス許可を選択する すべて展開

IMAP

“管理者の同意が必要”列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリごとにカスタマイズできます。この列には、ご自身の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。 [詳細情報](#)

アクセス許可	管理者の同意が必要
IMAP (1)	
<input checked="" type="checkbox"/> IMAP.AccessAsUser.All (1) Read and write access to mailboxes via IMAP.	いいえ

アクセス許可の更新 破壊

- アクセス許可一覧に「SMTP.Send」、「IMAP.AccessAsUser.All」が追加されているかをご確認ください。

GroupSession Exchange Online認証 | API のアクセス許可

検索 (Ctrl+F) << 最新の情報に更新 | フィードバックがある場合

アプリケーションに対するアクセス許可を編集しています。ユーザーは、既に同意したことがある場合でも同意が必要になります。

2020年11月9日より、エンドユーザーは、発行元が確認済みでない新しく登録されたマルチテナントアプリに対して同意を付与することができなくなります。MPN IDを追加して発行元を確認します

“管理者の同意が必要”列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリごとにカスタマイズできます。この列には、ご自身の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。 [詳細情報](#)

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一環としてユーザーが管理者からアクセス許可が付与されている場合、APIを呼び出すことが承認されます。構成されたアクセス許可の一覧には、アプリケーションに必要なすべてのアクセス許可を含める必要があります。アクセス許可と同意に関する詳細情報

+ アクセス許可の追加 日本トータルシステム株式会社に管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の...	種類	説明	管理者の同意が必要	状態
Microsoft Graph (3)				
IMAP.AccessAsUser	委任済み	Read and write access...	いいえ	...
SMTP.Send	委任済み	Send emails from mail...	いいえ	...
User.Read	委任済み	Sign in and read user ...	いいえ	...

アクセス許可とユーザーの同意を表示および管理するために、エンタープライズアプリケーションをお試しください。

5: Microsoft 365管理センター へアクセスする

下記URLへアクセスした後、サインインを行います。
※ Microsoft アカウントが作成済みの必要があります。

URL: <https://admin.microsoft.com/>

6: メール アプリの設定を行う

※ 下記の設定完了後、実際に設定が反映されるまで時間がかかる場合がございます。
設定完了後、GroupSessionからの送信メールサーバ接続が失敗する場合、
時間をおいてから再度お試しください。(約1 ~ 2時間)

- 画面左上のハンバーガーメニューをクリックします。
その後、[ユーザー] - [アクティブなユーザー] をクリックします。



- 一覧の明細行(GroupSessionからの接続を許可するユーザ)をクリックします。



3. 2. の操作により表示されるフライアウト上部の「メール」をクリックします。
その後、「メール アプリを管理する」をクリックします。

アカウント デバイス ライセンスとアプリ **メール** OneDrive

メールボックス アクセス許可
読み取りおよび管理アクセス許可 (0)
メールボックス所有者として送信するアクセス許可 (0)
代理人として送信するアクセス許可 (0)

メール アプリ
すべてのアプリが許可されています
メール アプリを管理する

グローバル アドレス一覧に表示する
はい
グローバル アドレス一覧の表示設定を管理する

メールの転送
なし
メールの転送を管理する

自動応答
オフ
自動応答を管理する

その他の処理
Exchange のプロパティの編集

ヘルプとサポート

4. 「IMAP」、「認証済み SMTP」を選択します。
その後、「変更の保存」をクリックします。

メール アプリを管理する

GroupSession開発 が Microsoft 365 のメールにアクセスできるアプリを選びます。

- Outlook on the web
- Outlook デスクトップ (MAPI)
- Exchange Web サービス
- モバイル (Exchange ActiveSync)
- IMAP**
- POP
- 認証済み SMTP**

変更の保存

4. OAuth認証情報を登録する

1:メイン 管理者設定メニュー画面を表示する
設定をホバー後、「メイン 管理者設定」をクリックします。

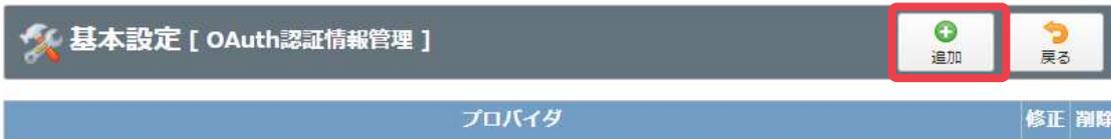
The screenshot shows the main dashboard of GROUPSESSION. At the top, there is a navigation bar with the user's name '山田 太郎' and a 'ログアウト' button. Below this is a grid of icons for various functions. The 'メイン' (Main) icon is highlighted, and a dropdown menu is visible, with '管理者設定' (Admin Settings) selected and highlighted with a red rectangle. Other options in the dropdown include '個人設定' (Personal Settings) and 'ログアウト'.

2: OAuth認証情報管理画面を表示する
メイン 管理者設定メニュー画面の「OAuth認証情報管理」をクリックします。

The screenshot shows the 'OAuth認証情報管理' (OAuth Authentication Information Management) settings page. It is divided into four sections: 'データ削除' (Data Deletion), '通知' (Notification), '自動連携設定' (Automatic Linkage Settings), and '表示設定' (Display Settings). In the '自動連携設定' section, the 'OAuth認証情報管理' option is highlighted with a red rectangle. Below it, there are descriptions for '自動連携設定', '手動削除', 'ショートメール通知設定', '表示設定', '自動連携設定', and '表示設定'.

3: OAuth認証情報登録画面を表示する

OAuth認証情報管理画面の「追加」ボタンをクリックします。



4: OAuth認証情報登録確認画面を表示する

OAuth認証情報を設定し、「OK」ボタンをクリックすると、OAuth認証情報登録確認画面に遷移します。

プロバイダ※	Google Mail
クライアントID※	<input type="text"/>
シークレットキー※	<input type="text"/>
備考	<div style="border: 1px solid #ccc; height: 100px;"></div>

※ OAuth認証情報の各設定について

■ Gmail を使用する場合

プロバイダ：“Google Mail” を選択

クライアントID：プロバイダ設定（※1）4. で取得した「クライアントID」を入力

シークレットキー：プロバイダ設定（※1）4. で取得した「クライアントシークレット」を入力

※1 本マニュアル「1. プロバイダの設定を行う(Google Mailの場合) [6: 認証情報を作成する]」

■ Exchange Online を使用する場合

プロバイダ：“Microsoft Exchange Online” を選択

クライアントID：プロバイダ設定（※2）2. で取得した「クライアントID」を入力

シークレットキー：プロバイダ設定（※2）5. で取得した「クライアントシークレット」を入力

※2 本マニュアル「2. プロバイダの設定を行う(Exchange Onlineの場合) [3: 認証情報を登録する]」

